

ポケット付き A E D パッドの考案について

久留米広域消防本部（福岡） 高山 由展

1 はじめに

救急現場において傷病者が心肺停止の場合、傷病者に A E D パッドを貼り心電図の解析を行ない、心電図解析の結果で電気ショックの必要性を確認し、現場活動方針を決定します。このような現場は切迫した現場であり、1つ1つの行動が1分1秒を争い、A E D パッドの貼り付けもその1つと言えます。しかし、切迫した現場の雰囲気と A E D パッドの構造上から上手く A E D パッドが貼れないことが多々あります。

このことは救急隊のみならず、消防隊、一般市民においても同様の課題であるため、今回ポケット付き A E D パッドを考案することに至りました。

2 既存の A E D パッドの問題点

- (1) A E D パッド裏面の粘着シートが傷病者の服や救急手袋等に貼り付いてしまう。(写真1)
- (2) A E D パッドが柔らかく、形状を保てずに曲がってしまう。(写真2)

3 改良内容

既存の A E D パッドの表面に手を入れる為のポケットを作成します。(写真3)(写真4)

4 使用方法

作成したポケット部分に手を入れて、A E D パッドの台紙を剥がして、傷病者の身体に貼ります。(写真5)(写真6)

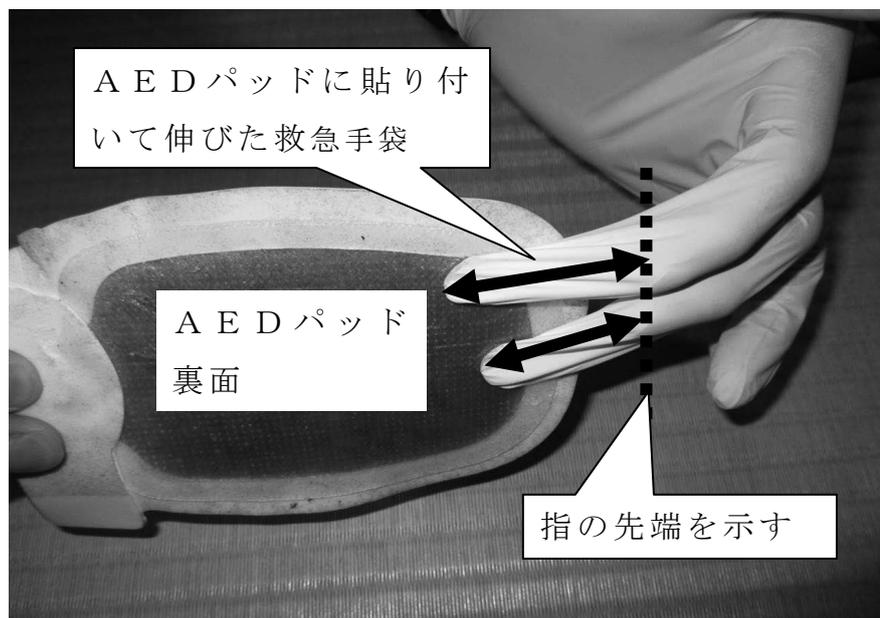
5 改良後の効果

- (1) A E Dパッド裏面の粘着シートが衣服や救急手袋に貼り付かない。
- (2) A E Dパッドの形状を保つことができ、貼る際に折れ曲がらない。
- (3) A E Dパッドが貼り難い服装（厚着やカッターシャツ等）の傷病者でも衣服を切って除去する事なく、着衣したまま迅速且つ確実にA E Dパッドを貼ることができる。

6 まとめ

改良したポケット付きA E Dパッドは既存のA E Dパッドよりも操作性に優れ、傷病者に対して簡単にA E Dパッドを貼れます。また、今までは傷病者が着ている衣服が邪魔でA E Dパッドを貼り難いと感じたら衣服を切り除去していましたが、改良したポケット付きA E Dパッドは衣服を切ること無くA E Dパッドを貼れるため、衣服を切る作業時間を省くことができます。その結果、A E Dパッドの貼り付けから電気ショックの有無の確認まで迅速に行なうことができ、現場での活動時間が短くなり、早期病院搬送へと繋がります。既存のA E Dパッドでの操作は消防隊のみならず、熟練の救急隊も貼り難さを感じていましたが、改良したポケット付きA E Dパッドは消防隊・救急隊共に貼り易いと感じており、普段A E Dパッドを扱うことのない一般市民の方にはより大きな効果が期待できると思います。

写真 1



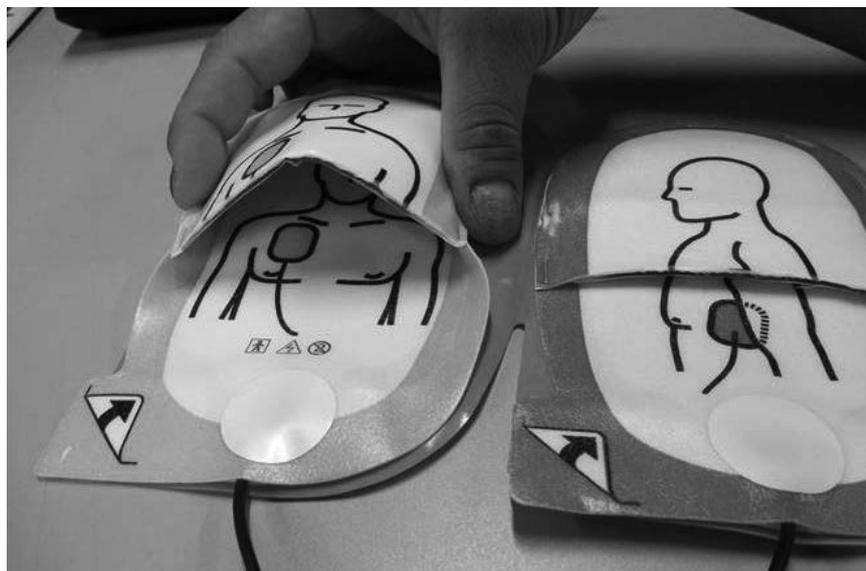
A E D パッドの裏面は傷病者の身体にしっかりと貼り付くように強い粘着性がある。

写真 2



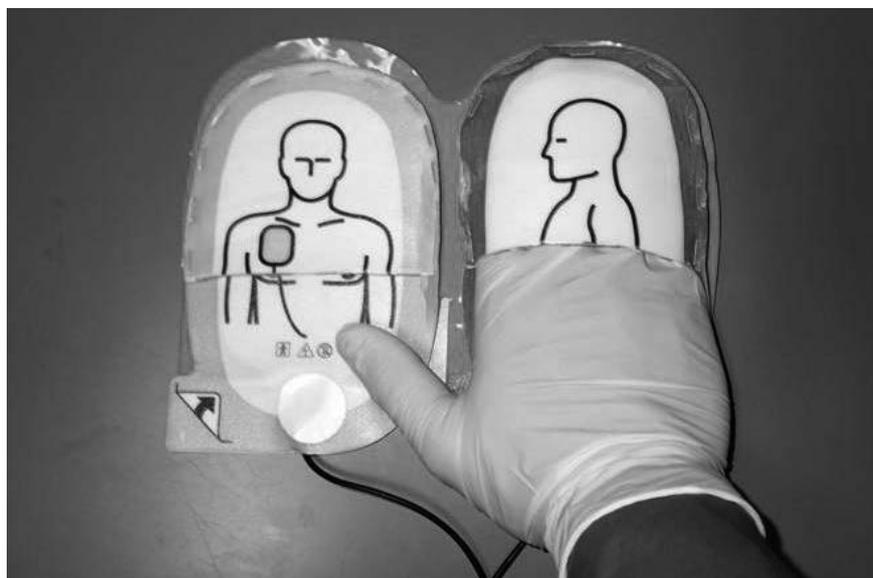
A E D パッドの素材が柔らかいため、形状を保てずに折れ曲る。
両手で操作すれば折れ曲ることはないが、衣服が邪魔で A E D パッドを貼るのが困難。

写真 3



手を入れるためのポケットを作成。

写真 4



作成したポケット部分に手を入れて使用。

手が大きくて入らない場合は入れる指の本数を減らしても使用可能。

貼り易さに変わりはありません。

写真 5



ポケット部分に手を入れて台紙を剥がす。

写真 6



AEDパッド裏面の粘着シートに一切触れることがないので救急手袋に貼り付かない。

AEDパッドの形状を保てるので、AEDパッドが折れ曲らない。
片手で操作しやすいので、もう片方の手で衣服を捲り上げてAEDパッドを貼ることが容易にできる。